

株 主 各 位

第42回定時株主総会招集ご通知に際しての
電子提供措置事項

事業報告

新株予約権等の状況	1 頁
会計監査人の状況	1 頁
業務の適正を確保するための体制	2 頁
業務の適正を確保するための体制の 運用状況の概要	4 頁
会社の支配に関する基本方針	5 頁

連結計算書類

連結株主資本等変動計算書	6 頁
連結注記表	7 頁

計算書類

株主資本等変動計算書	14 頁
個別注記表	15 頁

第42期
(令和5年4月1日から)
(令和6年3月31日まで)

フジプレミアム株式会社

本内容は、法令及び当社定款の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面（電子提供措置事項記載書面）への記載を省略しております。

業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は、以下のとおりであります。

- ① **当社及び当社グループ会社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**
 - ・コンプライアンス委員会・事務局を設置する。
 - ・役職員の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ社会的責任を果たすため、行動規範・倫理綱領を定め、それを全役職員に周知徹底させる。
 - ・管理部長を情報管理責任者とし、情報管理体制を強化する。
 - ・取締役に対するコンプライアンス研修を実施する。
 - ・内部監査を実施する。
- ② **取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制**
 - ・取締役の職務執行状況を確認できるような情報の保存・管理体制として、議事録、稟議書、契約書等保存対象書類、保存期間、検索のための分類方法、保存場所等を「情報取扱規程」に定める。
- ③ **当社及び当社グループ会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制**
 - ・リスク管理体制を統括する部署をリスク管理委員会とし、「リスク管理マニュアル」に定める。
 - ・従業員に対するリスク管理に関する教育・研修を実施する。
 - ・大規模な事故や災害・不祥事が発生した場合の危機対応マニュアルを整備する。
- ④ **当社及び当社グループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**
 - ・取締役会としての役割と責任権限を明確化する。
 - ・執行役員制度を導入し、経営体制と執行体制を分離することで、機動的かつ効率的な事業運営を行う。
 - ・「組織運営規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」により定める。
- ⑤ **当社及び当社グループ会社の従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**
 - ・従業員に対するコンプライアンス研修を実施する。入社時には個別教育を実施する。
 - ・内部通報窓口を設置する。

⑥ 当社及び当社グループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・当社グループ全体のガバナンス体制構築のため（組織と権限、担当役員と担当部署）の基本方針を策定する。
- ・子会社のコンプライアンスの周知のため教育や研修を実施する。
- ・親会社としての子会社管理の基本方針を「子会社管理規程」に定める。
- ・役員派遣による子会社のガバナンスを強化する。
- ・子会社の一定の経営上の重要事項に関する事項は、親会社の承認が必要な体制を整備する。
- ・業務執行状況・財務状況等を定期的に当社の取締役会に報告する。
- ・親会社の内部監査室による子会社の監査を実施する。
- ・危機発生時における親会社への連絡体制を整備する。

⑦ 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する事項並びに当該従業員の取締役からの独立性及び当該従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ・監査役会の職務を補助する事務局（監査役室）を独立して設置する。監査役補助スタッフの配置、員数を整備する。
- ・監査役補助スタッフの人事評価、懲戒処分等に対して監査役の同意を得る。
- ・当該従業員は、監査役補助スタッフ業務に関し、監査役の指揮命令下において優先して従事するものとする。
- ・「監査役会規程」により定める。

⑧ 取締役及び従業員が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ・当社及び当社グループ会社の取締役から監査役に報告する体制を構築する。（執行役員会議で決定された重要な事項、内部監査状況、社内不祥事・法令違反、リスク管理に関する重要な事項等）
- ・従業員から直接監査役に報告する体制を構築する。（内部通報情報、社内処分事例等）
- ・監査役への報告を行った当社及び当社グループ会社の取締役及び従業員に対して、不利益な取扱いをすることを禁ずる。

⑨ 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

- ・当社は、監査役がその職務の執行について必要な費用の前払等の請求をしたときは、速やかに当該費用又は債務を処理する。

⑩ その他監査役監査の実効的に行われることを確保するための体制

- ・監査役職務分担を行う。監査役と代表取締役、会計監査人との定期的な情報交換会を開催する。
- ・「監査役会規程」により定める。
- ・内部統制システムが有効的に機能しているか検証する。

⑪ 財務報告の内部統制システムが実効的に行われることを確保するための体制

- ・業務プロセスの文書化、リスク分析を行い、その対策を明らかにする。
- ・内部統制が機能するための組織、職務分担を明確にし、社内規程を整備する。
- ・事業活動にかかわる法令その他の規範の遵守を促進するため、法令遵守体制を整備する。
- ・計算書類及び計算書類に重要な影響を及ぼす可能性のある情報の信頼性を確保する。
- ・資産の取得、使用及び処分が正当な手続き及び承認の下に行われるよう、資産の保全を図る。
- ・財務を担当する部署に会計・財務に関する十分な専門性を有する者を配置する。

なお、反社会的勢力排除に向けた取組みは、以下のとおりであります。

① 基本的な考え方

- ・反社会的勢力の排除は企業の社会的責任とともに企業防衛の観点からも必須のことであり、反社会的勢力からの不当要求等には決して応じない。

② 整備状況

- ・「行動規範」に反社会的勢力排除を定め、社内に徹底を図っている。
- ・「リスク管理マニュアル」の中で、反社会的勢力からの不当要求等をリスクと捉え、当該団体等からの不当要求等に対処するようにしている。
- ・反社会的勢力の排除に向け、他企業との情報共有化及び警察との協調関係構築のため、「企業防衛対策協議会」に参加し、地域企業及び県警本部と交流、情報交換を図っている。
- ・反社会的勢力からの不当要求等に対し、総務部が窓口となり、経営トップをはじめ組織全体で事態に対処することとしている。

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の当事業年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

① 内部統制システム全般

当社及び当社グループ会社の内部統制システム全般の整備・運用状況を当社の内部統制委員、監査役及び会計監査人とで継続的に確認し、改善、強化に取組みました。

② コンプライアンス

当社は、当社及び当社グループ会社の役職員に対し、その階層に応じて必要なコンプライアンスについて、社内研修での教育及び会議体での説明を行い、法令及び定款を遵守するための取組みを継続的に行っております。

③ リスク管理

当社は、リスク管理マニュアルに基づき、リスク管理委員会を定期的開催し、当社及び当社グループ会社における重点管理リスクへの対応状況、リスク管理体制の運用状況の確認を行っております。

④ 取締役の職務執行

「組織運営規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」により、職務の執行が迅速かつ効率的に行われるよう努めております。

また、取締役会を19回開催し、法令又は定款に定められた事項及び経営上重要な事項の決議を行いました。

執行役員制度を導入し、経営体制と執行体制を分離して、機動的かつ効率的な事業運営を行っております。

⑤ 監査役

監査役は、取締役会に出席するとともに、経営会議及びその他重要な会議にも出席しております。更に、取締役等から業務執行の状況について直接聴取し、内部統制の整備、運用状況について確認しております。

また、会計監査人、内部統制に係る組織と必要に応じて情報交換を実施することで当社の内部統制システム全般をモニタリングするとともに、より効率的な運用について助言を行っております。

専任の補助スタッフを監査役会の直轄下に設置し、執行部門の組織から分離させております。

会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

注) 本事業報告中の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当連結会計年度期首残高	2,000,007	2,440,803	5,814,804	△863,930	9,391,685
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△171,449		△171,449
親会社株主に帰属する 当期純利益			524,656		524,656
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額 (純額)					
当連結会計年度変動額合計	-	-	353,207	-	353,207
当連結会計年度末残高	2,000,007	2,440,803	6,168,012	△863,930	9,744,893

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当連結会計年度期首残高	27,683	27,683	120,264	9,539,633
当連結会計年度変動額				
剰余金の配当				△171,449
親会社株主に帰属する 当期純利益				524,656
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額 (純額)	48,793	48,793	2,198	50,991
当連結会計年度変動額合計	48,793	48,793	2,198	404,198
当連結会計年度末残高	76,476	76,476	122,462	9,943,831

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 3社
- ・主要な連結子会社の名称
フジプレ販売株式会社
プレマテック株式会社
株式会社東陽社製作所
当連結会計年度より、株式会社東陽社製作所の株式を取得し、子会社化したことにより、連結の範囲に含めております。

② 非連結子会社の状況

- ・主要な非連結子会社の名称
普瑞玛精密科技（蘇州）有限公司
株式会社エポックス
エフピーパートナーズ株式会社
- ・連結の範囲から除いた理由
非連結子会社はいずれも小規模であり、各社の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・主要な会社等の名称
普瑞玛精密科技（蘇州）有限公司
株式会社エポックス
エフピーパートナーズ株式会社
北九州T E K & F P 合同会社
- ・持分法を適用しない理由
各社の当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの 時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）
- ・市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

(ロ) 棚卸資産

商品及び製品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

仕掛品

受注生産品：個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

標準生産品：総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- (イ) 有形固定資産
(リース資産を除く)
- 当社及び国内連結子会社は定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法）を採用しております。
- なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。
- | | |
|-----------|-------|
| 建物及び構築物 | 3～45年 |
| 機械装置及び運搬具 | 2～17年 |

(ロ) 無形固定資産

(リース資産を除く)

- ・ 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
- ・ その他の無形固定資産 定額法を採用しております。

(ハ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- (イ) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (ロ) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度負担額を計上しております。
- (ハ) 製品保証引当金 販売済の製品の無償修理費用に備えるため、過去の実績等に基づき当連結会計年度の負担額を計上しております。

④ 収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で（又は充足するに依りて）収益を認識する。

当社グループは、精密貼合技術関連、高機能複合材、環境住空間関連及びエンジニアリング関連の各製品の製造、販売及びサービス業務を行っております。主に加工した部材等を顧客に供給することを履行義務としており、原則として製品の納入時点において支配が顧客に移転して履行義務が充足されると判断していることから、当該時点において収益を認識しておりますが、国内販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の場合には、出荷時に収益認識をしております。また、エンジニアリング関連事業のうち一定期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短いものを除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定期間にわたり認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）で算出しております。

取引の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素を含んでおりません。

⑤ のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現すると見積られる期間で償却することとしております。

⑥ その他連結計算書類作成のための重要な事項

- (イ) 重要なヘッジ会計の方法 特例処理の要件を満たす金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。
- また、一体処理（特例処理・振当処理）の要件を満たす金利通貨スワップについては、一体処理を採用しております。

- (ロ) 退職給付に係る負債又は資産 小規模企業等における簡便法の採用
並びに退職給付費用の処理方法 当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、直近の年金財政計算上の数理債務をもって退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 重要な会計上の見積りに関する注記

- (1) 会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。
- | | |
|--------|-----------|
| 繰延税金資産 | 101,724千円 |
|--------|-----------|
- (2) 繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積もっております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動等によって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 9,011,097千円
- (2) 保証債務
連結子会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、以下のとおり債務保証を行っております。
- | | |
|--------------------|-----------|
| 北九州T E K & F P合同会社 | 325,000千円 |
|--------------------|-----------|

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
- | | |
|------|-------------|
| 普通株式 | 29,786,400株 |
|------|-------------|
- (2) 剰余金の配当に関する事項
- ① 配当金支払額等
令和5年6月29日開催の第41回定時株主総会決議による配当に関する事項
- | | |
|------------|-----------|
| ・ 配当金の総額 | 171,449千円 |
| ・ 1株当たり配当額 | 6円 |
| ・ 基準日 | 令和5年3月31日 |
| ・ 効力発生日 | 令和5年6月30日 |
- ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
令和6年6月26日開催予定の第42回定時株主総会において次のとおり付議いたします。
- | | |
|------------|-----------|
| ・ 配当金の総額 | 171,449千円 |
| ・ 1株当たり配当額 | 6円 |
| ・ 基準日 | 令和6年3月31日 |
| ・ 効力発生日 | 令和6年6月27日 |

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預貯金等に限定し、銀行等金融機関からの借入れ等により資金調達をしております。主に、借入金の金利変動リスク及び外貨建借入金等の為替変動リスクを回避するためにデリバティブ取引を利用しており、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に従い、リスク低減を図っております。また、投資有価証券は、主に企業の株式及び債券であり、価格変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。その一部には、輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替変動リスクに晒されております。借入金等は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。変動金利の借入金は金利変動リスクに晒されており、また、外貨建借入金は為替変動リスクに晒されております。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

(イ) 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権及び長期貸付金について、与信管理規程に従い、信用調査を実施するとともに、取引先毎に期日及び残高を管理しております。なお、当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権については、主に特定の大口顧客に対するものであります。デリバティブ取引の契約先は、いずれも信用度の高い金融機関であるため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないものと認識しております。

(ロ) 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券は、定期的に時価を把握し、保有状況を継続的に見直しております。一部の営業債務については、為替変動リスクを抑制するためにデリバティブ取引(為替予約)を利用しております。また、一部の借入金については、金利変動リスク及び為替変動リスクを抑制するためにデリバティブ取引(金利スワップ及び通貨スワップ)を利用しております。なお、デリバティブ取引の実行及び管理は当社グループのリスク管理方針に従い、経理担当部署が行っております。

(ハ) 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額その他、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和6年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は含まれておりません。

	連結貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券	613,167	613,167	—
資産計	613,167	613,167	—
(2) 社債 (※2)	360,000	359,289	△710
(3) 長期借入金 (※3)	2,387,687	2,380,658	△7,028
負債計	2,747,687	2,739,948	△7,738

※1. 「現金及び預金」「受取手形、売掛金及び契約資産」「支払手形及び買掛金」「短期借入金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

※2. 社債は1年内償還予定の社債を含んでおります。

※3. 長期借入金は1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。また、債券については、公表された相場価格が存在しないため、取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

社債及び長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

1. 市場価格のない株式等

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	70,669
関係会社出資金	333,874

非上場株式及び関係会社出資金については、市場価格のない株式等であることから、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。

2. 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済（償還）予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
社債	328,000	32,000	—	—	—	—
長期借入金	1,217,636	497,228	619,471	53,352	—	—
合計	1,545,636	529,228	619,471	53,352	—	—

6. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	精密貼合及び 高性能複合材部門	環境住空間及び エンジニアリング部門	
一時点で移転される財	8,295,641	2,085,100	10,380,741
一定の期間にわたり移転される財	－	2,867,520	2,867,520
顧客との契約から生じる収益	8,295,641	4,952,621	13,248,262
外部顧客への売上高	8,295,641	4,952,621	13,248,262

(注) セグメント間の内部売上高又は振替高を控除した後の金額を表示しております。

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

連結注記表 「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 (3) 会計方針に関する事項 ④収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

契約負債は主に、製品の引渡前に顧客から受け取った対価であり、連結貸借対照表上、流動負債のその他に含まれております。

顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債は以下のとおりであります。

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権	2,651,833千円
契約資産	838,519
契約負債	25,708

当連結会計年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債の残高が含まれている金額に重要性はありません。なお、当連結会計年度において、過去の期間に充足した履行義務から認識した収益の額には重要性はありません。

未充足（又は部分的に未充足）の履行義務は、期末日現在で742,775千円であります。当該履行義務はエンジニアリング関連事業の契約に関するものであり、期末日後1年以内に収益として認識されると見込んでおります。

7. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 343円71銭
 (2) 1株当たり当期純利益 18円36銭

8. 企業結合に関する注記

(取得による企業結合)

当社は、令和6年3月13日開催の取締役会において、株式会社東陽社製作所の株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、令和6年3月25日付で株式を取得いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社東陽社製作所

事業の内容：自動車及び二輪車の部品製造

(2) 企業結合を行った主な理由

本株式取得によって、自動車部品業界への関与を深め、新たな部品ビジネスの受注に向けた体制を構築できるものと考えております。また、株式会社東陽社製作所が保有する金属加工技術を活用することで、ビジネス機会の幅を拡大できるものと判断し、同社を子会社化することを決定いたしました。

(3) 企業結合日

令和6年3月25日（株式取得日）

令和6年3月31日（みなし取得日）

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

当連結会計年度は貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

株式譲渡契約の定めにより、当社は秘密保持義務を負っていることから非開示とさせていただきます。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 41,440千円

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	981,439千円
------	-----------

固定資産	534,687
------	---------

資産合計	1,516,126
------	-----------

流動負債	585,767千円
------	-----------

固定負債	19,266
------	--------

負債合計	605,034
------	---------

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生した負ののれん

11,092千円

(2) 発生原因

取得原価が受け入れた資産及び引き受けた負債に配分された純額を下回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす

影響額及びその算定方法

影響の概算額の金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

9. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,007	2,436,668	4,135	2,440,803	3,000,000	1,200,107	4,200,107
当期変動額							
剰余金の配当						△171,449	△171,449
当期純利益						375,123	375,123
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	203,674	203,674
当期末残高	2,000,007	2,436,668	4,135	2,440,803	3,000,000	1,403,782	4,403,782

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△863,930	7,776,988	14,303	14,303	7,791,292
当期変動額					
剰余金の配当		△171,449			△171,449
当期純利益		375,123			375,123
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			25,748	25,748	25,748
当期変動額合計	-	203,674	25,748	25,748	229,423
当期末残高	△863,930	7,980,663	40,052	40,052	8,020,715

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

・市場価格のない株式等 時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）
以外のもの

・市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

② 棚卸資産

商品及び製品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

仕掛品

受注生産品：個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

標準生産品：総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～45年

機械及び装置 2～17年

及び車両運搬具

② 無形固定資産

（リース資産を除く）

・自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

・その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で（又は充足するに応じて）収益を認識する。

当社は、精密貼合技術関連、高機能複合材、環境住空間関連及びエンジニアリング関連の各製品の製造、販売及びサービス業務を行っております。主に加工した部材等を顧客に供給することを履行義務としており、原則として製品の納入時点において支配が顧客に移転して履行義務が充足されると判断していることから、当該時点において収益を認識しておりますが、国内販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益認識をしております。また、エンジニアリング関連事業のうち一定期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短いものを除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定期間にわたり認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）で算出しております。

取引の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素を含んでおりません。

(5) その他計算書類作成のための重要な事項

重要なヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たす金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。

また、一体処理（特例処理・振当処理）の要件を満たす金利通貨スワップについては、一体処理を採用しております。

2. 重要な会計上の見積りに関する注記

- (1) 会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

繰延税金資産 74,252千円

- (2) 繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積もっております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動等によって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 6,438,952千円

- (2) 保証債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、以下のとおり債務保証を行っております。

北九州T E K & F P合同会社 325,000千円

- (3) 関係会社に対する金銭債権、債務

① 短期金銭債権 24,880千円

② 短期金銭債務 301,072千円

③ 長期金銭債務 600,000千円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

(1) 売上高	181,023千円
(2) 仕入高	345,926千円
(3) 上記以外の営業取引高	73,939千円
(4) 営業取引以外の取引高	200,285千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式	1,211,561株
------	------------

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

賞与引当金	3,616千円
貸倒引当金	814
棚卸資産評価損	83,549
投資有価証券評価損	18,348
減損損失	24,829
その他	26,358
繰延税金資産小計	157,516
評価性引当額	△56,958
繰延税金資産合計	100,557

繰延税金負債

前払年金費用	△8,661
その他有価証券評価差額金	△17,643
繰延税金負債合計	△26,304
繰延税金資産の純額	74,252

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容及び金額(千円)	科目及び期末残高(千円)
親会社	フォローウィンド株式会社	10,000千円	太陽光発電事業	(被所有)直接 42.38%	製品の販売等 役員兼任	製品販売等 22,008	売掛金 1,923

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

製品販売等については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(2) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容及び金額(千円)	科目及び期末残高(千円)
連結子会社	フジプレ販売株式会社	305,000千円	販売業	(所有)直接 91.6%	業務委託 役員兼任 資金の借入	業務の委託等 73,653 資金の返済 300,000 利息の支払 1,790	買掛金 20,473 長期借入金 600,000
連結子会社	プレマテック株式会社	50,000千円	製造業	(所有)直接 100.0%	製造委託 役員兼任	製造の委託等 346,212	買掛金 125,075 電子記録債務 155,523
関連会社	北九州TEK & FP合同会社	10,000千円	太陽光発電事業	(所有)直接 40.0%	債務保証	債務保証 325,000 保証料の受取 532	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

業務及び製造の委託等については、一般の取引条件と同様に決定しております。

フジプレ販売株式会社からの資金の借入については市場金利等を勘案して、利率を合理的に算定しております。

当社は、北九州TEK & FP合同会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っており、債務保証料については、市場金利等を勘案して決定しております。

(3) 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容及び金額(千円)	科目及び期末残高(千円)
親会社の役員並びに役員及びその近親者	松本 實藏	—	当社会長	なし	当社会長	会長報酬の支払 28,180	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

会長報酬については、会長としての経営全般に関する助言等の対価として、協議の上決定しております。

8. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結注記表「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 (3) 会計方針に関する事項 ④収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

9. 企業結合に関する注記

連結注記表「8. 企業結合に関する注記」に記載しているため、注記を省略しております。

10. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	280円69銭
(2) 1株当たり当期純利益	13円13銭

11. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。